

論 耕

マイナス金利の功罪

政策の幅拡大 日銀の延長戦



関田航撮影

1951年生まれ。専門はマクロ経済学、金融論。98年4月から7年間、日銀の最高意思決定機関の政策委員会審議委員。著書に「ゼロ金利との闘い」。

植田 和男さん

日銀審議委員を務めた東京大学教授

今回、日銀が導入したマイナス金利政策は、すでにデンマークやスイス、そしてユーロ圏で採用されています。金融の世界では緩

また、黒田東彦総裁はマイナス金利に否定的でしたが、実際に導入したことを「トリック」と批判するのにも当たらないと思います。

日銀の場合、3年間にわたる量的、質的にも未曾有で「異次元」といわれた金融緩和にもかかわらず、景気や物価など肝心の実物経済に動きが見られませんでした。一方、すでに国債の発行総残高の

さらにもう一度マイナス金利幅を拡大できるのか。欧州の先行例から見て、市中銀行の小口預金をゼロ近傍にしたまま、中央銀行はマイナス1%程度まで金利を下げることが可能だといえそうです。

さらに利下げも

「日銀にできることは、もはや限界に近いのではないか」という市場などで広がった疑念に対し、「いやいや限界の底はまだ深い」と宣言したが、今回のマイナス金利ということでしょう。

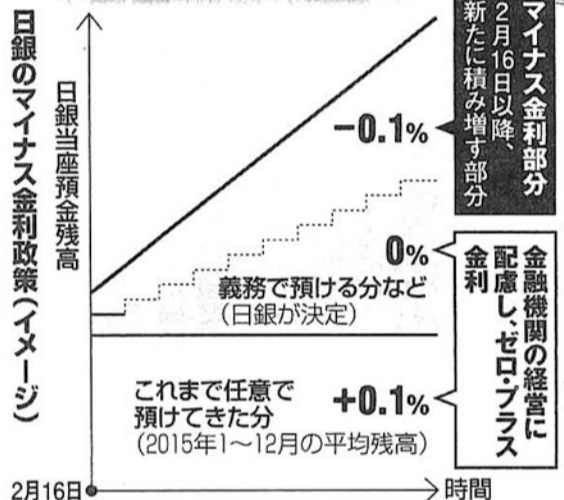
これは日銀にとって想定外の事態でしょう。むしろ世界で強まるリスク回避のなかで、マイナス金

カードは少ない

日本に限らず「さらなる緩和策」を求める市場に添えてきた中央銀行に残されたカードは、そんなにありません。それを見抜いた市場に相対する金融当局は、かつてない苦境が続くとしかしいよう

利の決定が市場変動の引き金をい

世界経済の先行き不安が強まるなか、日本銀行のマイナス金利政策が始まった。意表を突いた政策転換は、成長を取り戻すための攻めの一手なのか。市場にショックを与えるだけの奇手なのか。日銀を知り抜く金融のプロ2人に聞いた。



日銀のマイナス金利政策
民間金融機関は日銀に預けるお金のうち、一定額を超えた分に0.1%の金利を支払わなければならない。日銀は長期国債の大量買い入れも続け、金利全般に下押し圧力をかけてデフレ脱却を狙う。先月末の政策決定で長期金利が一段と下がり、今月9日にはマイナスを記録した。

無断複写・転載を禁じます